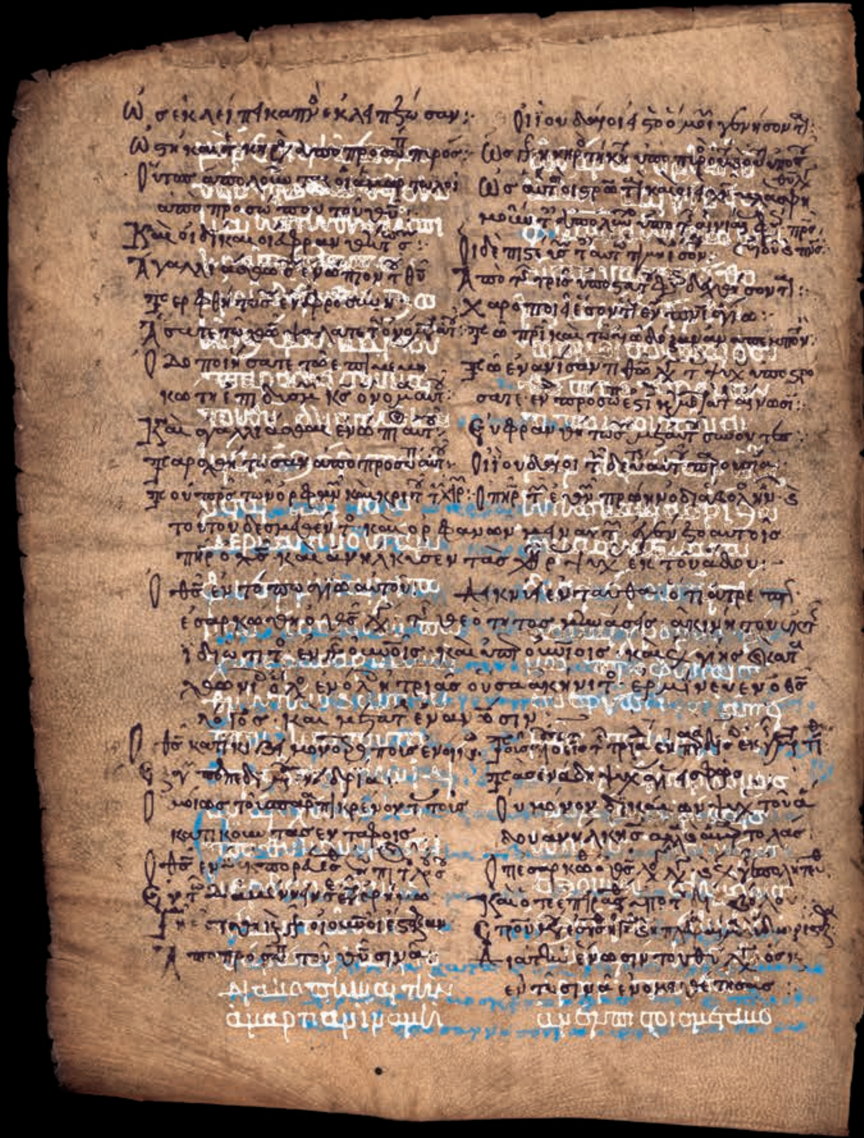
TOPPAN
と
かいどく

004

ヴァチカンの隠された過去。

ヨーロッパで紙が広く使われるようになったのは、実は15世紀頃。古代から中世までは羊の皮を薄く伸ばしたものが紙代わりでした。その羊皮紙、当時は金と交換されるほど高価。皮の表面を削り、上書きする形で何度も再利用したのです。そして19世紀。とある文書に遺る文字の痕跡を解読すると、そこには古代ローマの哲学者キケロの著作の未知の部分が。以来、世界史を覆す発見を！と解読が始まったのです。トッパンも2005年より、その一翼を担っていますが始まりは意外や意外。トッパンの技術に注目したヴァチカン教皇庁図書館からの依頼が発端なのです。

「所蔵する250冊すべてを2020年までに復元したい。それも新たな解析法で…」というのも従来の薬品や紫外線を用いる方法は、本を傷め人体にも有害だから。そこでトッパンはハードとソフト両方を独自に開発。高解像度スキャナーは本を傷めず、デジタル化の作業を劇的に短縮。また羊皮紙は何度も上書きされていますから、隠れた文書は1つだけではありません。そこで解析ソフトは、読み取った文字を時代別に色分け表示できるようにしました。すでに数々の発見がなされ論文化もされていますが、その成果はさらに加速しそうです。

TOPPAN

http://www.toppan.co.jp